

魅力産業 あふれる

さとうきび中心の農業を基幹産業とし、
着実に環境整備が進む水産業。
総力を結集して進める活力ある村づくり。



■ さとうきびは島を守り 島は国土を守る

基幹産業である農業については、開拓以来、住民の努力と関係機関の支援により、我が国では例のない大型機械化一貫作業体系によるサトウキビ農業が確立されてきました。

農業技術(匠の技)×先端技術(AI・IoT等)=スマート農業で農業の成長産業化

国立大学法人 琉球大学を代表としたコンソーシアムで立ち上げたUFSMA(うぶすま)プロジェクトでは、南大東島のサトウキビ農業の振興と安定化を図る、機械化農業の第三次イノベーションを目指したスマート農業の技術開発と実証を行っています。

第1弾 技術開発

(平成31年4月～令和3年3月)

GPSを使用した農業機械の自動操舵による植付け～収穫作業の実証や、微気象観測ポスト設置による気象データの収集、ドローンによるハリガネムシ交信かく乱チューブの散布、遠隔操作によるかん水を実施。



自動操舵の実演



ハリガネムシ交信かく乱チューブ散布



微気象観測ポスト



実証中のさとうきび畑



貯水池から給水する遠隔操作エンジン



自動かん水システム

第2弾 スマート農業産地を作る

(令和4年4月～令和6年3月)

第1弾で開発した技術を村内の委託農家4社に配布し、植付けや収穫に自動操舵システムを取り入れた。また、かん水チューブを地中埋設し、微気象観測ポストのデータに基づき、自動かん水システムによる地中かん水を実証中。

農業振興の基盤づくりを目指した 様々な農業整備事業

さとうきびを中心とした農業は、これからも島の基幹産業として、積極的に推進していきます。村の農業農村整備事業「ほ場整備・農業用水源施設整備・かんがい排水施設整備」の整備率は依然として低い現状です。今後も事業の必要性を求め、新規採択整備に務めつつ、農家の生産意欲を高めて且つ所得向上につなげられるようにします。



①農業新規就業者の増加の為に農業雇用者住宅。②さとうきびやかぼちゃ栽培には欠かせない貯水池。③大型の農業用かんがい施設(貯水タンク)であるファームpond。④令和2年度に導入したさとうきびの前処理施設。⑤マリタンク(設置型農業用タンク)。⑥南大東最大規模の貯水池(工事中)。⑦さとうきびのかん水には欠かせない自然池の整備や水草繁茂によって悪化した環境を回復するための水草除去船(みなみだいとうS/水陸両用車)。

輪作農産物として注目されているカボチャ



さとうきびとの輪作作物としてカボチャが広く栽培されています。JA南大東支店野菜部会が中心となって、品質や栽培技術、適期防除管理等の習得に取り組み、農家所得の向上、安定で一大産地としてのブランド化を目指しています。

